

第二回 北川ダム建設事業「検討の場」会議 (安曇川治水計画に対する意見交換会)

議事概要

事 項	第二回 北川ダム建設事業「検討の場」会議	参加者	構成員 : 39名 一般傍聴 : 28名 高島市・県関係者 報道関係者等
日 時	平成 23 年 6 月 5 日 (日) 13:30 ~ 16:00	場 所	高島地域地場産業振興センター2F 多目的ホール
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開催にあたって <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県知事、高島市長 2. 開会 3. 委員の紹介 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> 1) 資料説明(事務局説明) <ul style="list-style-type: none"> 第一回「検討の場」の開催結果について 現在の安曇川の治水安全度 現在のダム事業の点検結果 目標とする治水安全度 当面の整備目標を達成する方法 国の評価軸の説明 国の評価軸による評価結果 2) 意見交換会 3) 一般傍聴者からの意見 5. 閉会 		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・座席表 ・ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目 ・北川ダム建設事業「検討の場」規約 ・第一回北川ダム建設事業「検討の場」説明資料 ・第一回検討の場議事概要 ・第二回北川ダム建設事業「検討の場」説明資料 ・第二回北川ダム建設事業「検討の場」参考資料 		



1. 開催にあたって
開催にあたって、滋賀県知事、高島市長よりあいさつ

2. 開会
『第二回 北川ダム建設事業「検討の場」を開会した。
配付資料の確認を行った。

3. 委員の紹介
委員の紹介を座席表の確認にて行った。

4. 議事

(1)資料説明

第一回「検討の場」の開催結果について
現在の安曇川の治水安全度
現在のダム事業の点検結果
目標とする治水安全度
当面の整備目標を達成する方法
国の評価軸の説明
国の評価軸による評価結果

(2)意見交換会

説明内容について、意見交換を行った。

【委員からの主な意見】

委員)最初はダムに反対していたが、県から下流の方々の生命、財産を守るためダムを作りたいと再三の申し出があり、ダムに協力することにした。苦労したが、地元はまとまった。

いまさらダムを凍結といわれるのは困る。どうしてもダムが必要ないのであれば、続けるとは言わないが、我々の心労を汲むべきだ。

28年の水害もそうだが、いつどのような災害が起こるとも予測できないので、そうならないよう願う。

また、ダムの影響で過疎化が進んだので、過疎対策を検討してほしい。

知事)40年以上、下流の生命と財産を守るため犠牲になっていただき、ご苦労されたことと思います。できるだけ早く、地元に通じて、直接、皆様のお話を聞かせていただきたい。

また、28年水害の様子は、私も地元の方から聞かせていただいている。



いろんな川を見てきて、洪水被害からどうしたらできるだけ早く、命を守れるかの政策を 30 年研究してきた。その一つがダムだけに頼らない水害対策である。もちろんダムも効果がある。本日は 3 つの案を提案する。地域でどう評価するか時間をかけていただければと思う。

確実に税金を入れて、具体性のある、実現性のある、早く確実に命を守れる水害対策を提案させていただきたい。

本日の 3 案は、安全度と言う意味では同じレベル、2,100m³/s まで洪水が流せる案です。28 年水害は 3,000m³/s くらいなので、それを防ぐという案は、ダムを造っても難しい。そのようなときは、できるだけ堤防を強化し、万一あふれたときには土地利用の仕方の工夫や、洪水ハザードマップにより避難いただくなど、ぎりぎりの状態まで皆様と話し合いの中で方向を決めていきたい。

また、過疎対策は、福島県にも声かけしているが、農業、畜産など地元を離れることが難しい事情もある。京都、大阪にも PR していきたい。

委員) 先日の雨以来、川の濁りが続いている。昔であったら遅くとも 4 日で大体水が澄んでくる。

河川改修してから、川底が低下したり、泥がたまり、草やヨシもはえ、土木に言っても予算がないとかで、我々の「やな漁業」にとって具合がわるい。

住んでいるのは安曇川の北流と南流の間で、川が増水すると心配で堤防を見回ることもしている。川が濁ると魚も上がってこない。これらのことも考えてほしい。

知事) 5 月 29 日に安曇川から朽木に来たが、5 月の雨量としては観測史上最大のものである。泥の出方については、今までにない状態(濁りの程度が高い)ではないかと感じた。土木の方に土砂量の測定について聞いているが、なかなかそのようなデータはない。

皆様のご意見を聞いて、河川改修にあたっては、瀬と淵をアユが住みやすいようにしっかり残しながら、また工事中の泥の出方や魚にできるだけ影響が少なくなるよう工夫し、相談させていただきながら進めていきたいと思う。

委員) 濁りについては、木地山の上流に、森林開発公団(現：(独)緑資源機構)が、約 200ha の植林を行い、道路が作られているが、雪の降るたびに法面の泥が落ちて崩れる。砂防堰堤も満杯である。これが大きな原因である。

事務局) 道路の法面が荒れて、土砂流出が増えて麻生川の堰堤が一杯になり、麻生川に流れ出ていると思われる。森林公団の件のため、直接対応することはできないが、来週でも現場を確認したい。

委員) これまでにダム事業で 114 億円使ったとしているが、何に使われたのか。

・その 114 億円が、現在の下流河川の安全度、概ね 1/15 につながっているのか。

- ・ 3 案示されたが、どの案になってもこの 114 億円に無駄が発生しないのか。

事務局) 114 億円の内訳については、三ツ石から第一ダムまでの小浜朽木高島線と北川筋の麻生古屋梅ノ木線の一部に工事中道路として約 30 億円、ダムや道路、用地などの調査費に約 42 億円、貯水池などの用地補償費に約 35 億円の 3 つが主な内容です。道路に使った事業費は、効果としては、道路として供用している。ダム上流の用地補償については、今の段階では使っていないので効果は発揮していない。

この 114 億円を使ったことによる、現在の安曇川の安全度(一番狭いところで概ね 1/15)への効果はない。

委員) たとえば、ダムを造らないで治水対策をする案になった場合は、この 114 億円は無駄にならないのか。

事務局) 資料の 17 ページで、概ね 1/15 が今の安曇川の安全度で、長期的な目標は 1/100 と考えているが、今回は当面の目標として概ね 1/30 を目標としている。

今後その 1/30 ができたときに、次の段階の話として、既にダム建設予定地を用地買収しているの、次の段階ではダムも一つの選択肢になると思っている。

委員) ダムを造らないで治水をするという案もあったかと思うが。

事務局) 先ほど説明したのは、当面の目標を 1/30 とした場合に、1 案は第一ダム、第二ダムと河道改修、2 案は第一ダムと河道改修、3 案は河道改修だけによるという案、当面 1/30 という安全度を目標にした場合は 3 つの選択肢がある。今後、将来 1/50 に上げたり、将来の長期目標であるという 1/100 にするときには、河道改修だけでは対応できないので、ダムなり遊水地など、いろいろな対策を組み合わせで次の段階の対策を検討していくということである。

委員) そうすると 1/30、1/50、1/100 までは、どんどん進むのか。

事務局) 安曇川は 300km² という大きな流域を持っているので、滋賀県としてはそういう大規模な河川の将来の目標は 100 年に一度程度の洪水に対応できることを目指していきたいという基本的な考え方を持っている。次の段階としては、いろんな対策を組み合わせで、その時々最適案を選んでいきたいと考えている。

委員) 当面 1/30 でダムに頼らない政策を選択されたら、買収済みの用地は無駄になるのか。

事務局) 当面は治水対策として活用ができないが、約 60ha の土地は管理していく。また、次の段階でどう活用するかは検討していく。

委員) 土地買収されたことは、ダムを造ることが前提なのか。

事務局) 第一ダムについては用地補償をさせていただいた。今後、こういった活用をさせていただくかは慎重に検討して判断していきたいと考えている。

委員) 資料の7ページから9ページ、安曇川の治水安全度の低い、流下能力の小さい箇所を写真で説明されても判らない。

安曇川は河床低下している。5月30日の洪水でも、一晩見ていて水面は堤防から6m下であった。川幅や水深が判るものを示してほしい。

事務局) この前の雨の時に、まだまだ余裕があったと言われていると思うが、5ページのグラフ(現況流下能力)は、堤防から一定の高さを引いた水位での水の流れる量を示している。常安橋付近では、1,500m³/s程度で、この前の雨では800m³/s程度が流れたと推定している。

委員) この前の洪水で高岩橋の工事用土のうが下流まで流れて、水位が一気に上がっているはず。30~40cm上がったと思う。この50年間、危険があると感じた洪水は1回だけである。河床低下が進んでいると思うが、河床低下は測っているのか。

また、昔に比べて川幅も広がっている。洪水になるような極端な水はここ50年間見たことがない。

事務局) 昭和30年代から50年代にかけて砂利採取がおこなわれ、河床が概ね1m~1m50cm下がっている。川幅についても若干広げられ、低水路幅も広がっている。引堤している所というのは、安曇川大橋から下流、特に太田地先を中心に行っている。

特に古い部分は昨年度50mピッチで測量したので、狭小な所など代表的なところを次回お示させていただく。

事務局) 次回といわず、整理できた段階で質問された委員には説明をする機会を設けたい。

委員) ダムができたら環境面にどのような影響があるのか。

事務局) 先ほどの説明資料、37ページの7の環境への影響であるが、ここで1案と2案については、ダムの環境への影響を記述している。北川ダムは現計画で通称穴あきダムと言う形式。小さい穴を開けておき普段の水はそのまま流れるが、洪水時、たくさん水が来た場合には、一定の水量しか流れず貯まるという型式で、穴あきダム、流水型ダムと呼ばれている。

その影響については、資料を少し読ませていただく。「流水型ダムで、平常時の

流量・水量・水質への影響はほとんど無し。ダム、河道改修の工事中の濁水は、十分な対策で影響緩和」。生物環境への影響では、「洪水時の一時的冠水で、貯水池周辺の生物環境に影響の可能性あり」、上流部の魚も、植物もそういう影響の可能性があると。「施工時はダム事業地周辺の猛禽類等への影響の可能性あり」、先ほどから話しに出ているクマタカなどの影響の可能性もある。次は河道改修なので直接関係はないが土砂流動で、「多くの土砂はダム通過、洪水時に流入した一部の礫等は貯水池内残留」ということである。また、その他、景観、自然との触れ合いに関しては、その下に書いてあるとおり、ここに書いているのは主な環境への影響と考えている。

委員) 穴あきダムでも下流の水質に影響が無いとは言えないはず。ダムができたら洪水による濁水が長引き、水質は悪化する。

事務局) 流水型の穴あきダムというのは、現在、全国で運用されているのは島根県の益田川ダムだけである。他の穴あきダムと言われるのは自然調節のダムのことと思うが、濁水が発生して、貯水池に一時滞留して、その濁水が長期化するというのは貯留型ダムの宿命みたいなものである。

北川ダムでは、河床部に穴を開けて、通常の流れは速やかに流すもので、洪水時には一時、貯留するので濁水も一時発生し、ダムがない場合よりは確かに濁水が出るが、貯留型のダムに比べれば格段にダムによる濁水の長期化は少ないという意味である。

委員) ダムの水位が下がる時に、貯水池内の法面の土砂を引っ張るので濁るのではないか。

事務局) 洪水時の後期、引き際には貯水池の法面を削りながら、あるいは懸濁して貯まっている水は濁水化しダムがない場合より影響は出るが、貯留型のダムに比べれば濁水の長期化はかなり減る。決して影響が無いということではない。

委員) 水生生物など、ダムでどこまで影響が出るという調査は行っていないのか。砂防ダムができている川は、ほとんど死んでいる。漁業者としてはそこを検証してほしい。

知事) 穴あきダムの事例は、全国で益田川ダムしかない。魚は壁があるだけで行動が変わり、魚だけでなく水生昆虫にも影響が出るだろう。何らかの影響は避けられないことを、議論はしつつある。

委員) 資料 35 ページを見ていくと、1/30 に対応した数字でダムを造らない方法が 65 億円で対策ができることになる。これがいちばんコスト的にも安く、効果が大きい

のではないか。ダムによる川への影響も出てこないように思うが。

事務局) コスト面では、これが一番有利である。

最終は、地先の安全度の指標も加えて総合的に評価したい。ダムは約 60ha の用地買収させていただいていることもあるので、そういった土地の今後の活用も含めて、最終的に総合的に考えた上でどういう選択肢を取るかを、次回お示ししたい。

委員) ダムを造る前提の話なら、案 3 (河道改修案) を示すのはどうかと思う。

事務局) 国から予断を持たず検証せよとの要請を受けている。それで、河道改修案も含めて予断無く検証し、比較した上で判断しようとするものである。

今の 3 案は、当面 1/30 としたときは河道改修案単独でも対応ができるが、1/50、1/100 となると違う判断がでてくると思う。

委員) これをみるとどの案も同じ効果とみられる。

事務局) 今回はすべて 1/30 の安全度を確保するため 2,100m³/s で並べている。例えば、ダムのある案は河道改修の規模を 1,900m³/s とするなど河道改修の規模を少し小さくしている。

委員) 常安橋での第一ダムの低減効果が 130m³/s しかないが、少なすぎないか。

もう一点、安曇川は、河床が低下しているので、これ以上下げられないのではないか。また住宅地も多く引堤は困難と思われる。

新旭や安曇川では「かばた」の文化がある。針江などの水は、DNA 鑑定で調査されたときに安曇川の水と同じであったということで、河道掘削を行うと、周辺の地下水への影響はどうか。

仮にダムをやめて、河道改修だけになった場合、どれくらいの年数がかかるのかを教えてほしい。

事務局) 常安橋での第一ダムの効果が 130m³/s しかないことについては、基本高水 1/100 で 3,200m³/s の場合、第一ダム、第二ダムと針畑川のダム構想を含め 3 ダムで 1,100m³/s をカットする。そのうち第一ダム、第二ダムともそれぞれ 200m³/s ぐらいの効果である。それがなぜ小さくなるかについては、基準点の集水面積は約 300km² であるが、第一ダム、第二ダムとも集水面積がそれぞれ 20 km² 程度で 10% に満たず、ダムの効果として 1/30 では 130m³/s しか出てこないという結果である。北川第一ダムの効果が小さいのはダムの集水面積が基準点の集水面積の 8% 程度しかないということが原因である。

二点目の河道改修については、地下水への影響を考慮し、河床を掘り下げることにはしたくないと考えている。実際の工事では、低水路を広げたりする対応でなんと

か 2,100m³/s を安全に流下させ、地下水利用にも影響を与えないような方策を慎重に検討していきたいと考えている。

もし、河道改修案を選んだときに何年ぐらいでそれが実現できるかについては、河口から 1.5km 程度は 2,100m³/s が流下できる断面は確保されていることから、1.5km ぐらいから合同井堰までの区間が河道改修の対象として、約 65 億円という改修費を計上した。

なお、この中でも優先されるべき箇所として、河口から 7km ほどの所までは天井河川になっているので、まずは天井河川の所の堤防強化と流下能力の向上というのを最優先で取り組みたいと思っている。これらの費用を詳細に検討した上で、できるだけ早く効果が発現できるような河道改修案の提案をさせていただきたい。

どれぐらいの期間というのは、今は予算もあるので申し上げられないが、次の段階で関係の皆様と議論をしながら検討していきたいと考えている。

(3)一般傍聴者からの意見

傍聴者 A)資料には、ダム推進派や反対派にも良く判るよう、提案の下地となったデータ(出典)を公開されたら良いと思う。

また、ダムの維持管理費が 50 年の計算になっているが、多分 1/50 と混同されているのでは。

資料に断定的表現が多いので考慮されればよい。



事務局)国の定める治水経済調査マニュアルで維持管理費は 50 年間分を計上するとされている。

傍聴者 B)環境を重視してほしい。安曇川北流、南流の間に 200 戸あるが、洪水で危ないと思ったことは、2,3 回しかなく安心している。昭和 32 年から河川改修され、川幅も広くなり下流は問題ない。

また、穴あきダムですが、益田川ダムも視察したが、川ではなく水路のような感じであった。

知事)大変熱心に資料をご覧いただき、またご意見をいただきありがとうございました。未来にどういう選択をしていくのか、今日必要性、影響などについてご意見を伺いました。

責任ある立場として、慎重に財政的な問題、技術的な問題、そして何よりも効果を考え、そして皆さんの納得いただける形で議論を進め、8月に3回目を、そしてもう一回、4回このような場を持って最終的な判断をしていきたい。

終了